



園部城跡

縄文・弥生・古墳時代



黒田古墳

縄文遺跡は確認されていませんが弥生遺跡は上木崎町、南大谷、曾我谷に確認されています。
古墳は中瀬古墳（前方後方墳、上木崎町）垣内古墳（前方後円墳、内林町）、黒田古墳（前方後円墳黒田）や円墳62基が確認されています



黒田古墳



園部黒田古墳墳丘復元図

黒田古墳は工場誘致に伴って、造成中に見つかったもので弥生時代から古墳時代前期にかけての日本でも最古のものといわれています

園部黒田古墳出土双頭龍文鏡
(原寸大)

丹波国11郷のうち、野口郷と城崎郷が園部町に存在し、野口郷には古代山陰道の野口駅が置かれていました。式内社は志多非神社と摩気神社がありました。

荘園は北野社領としての船井荘、後白河法華堂としての船井荘がありました。

荘園

船井荘

船井荘は建武3年5月25日に足利尊氏によって、地頭職が北野社に寄進されたもので11か村で成立していたとされます。足利尊氏、直義が新田義貞を討ったことによる戦勝記念のものであるといえます。園部町に属する地名では穴人村、船坂村、大村、新江村、黒田村、横田村、熊崎村などがあります。

中世

野口荘

野口荘は野口駅付近に成立した皇室領の野口牧が前身であると考えられ、後に東寺の荘園となり、荘域は園部町西本梅地区であると思われます。

山城

園部町にも園部城を中心に取り囲むように山城が築されました。園部城（荒木氏）、小山城（荘林氏）、大村城（田中氏）、穴人城（小畠氏）、黒田城（森氏）、船坂城（足立氏）、野々口城（野々口氏）、高山城（内藤氏）、蜷川城（蜷川氏）の10か城が確認されています。



園部城は荒木山城守氏綱の居城でありましたが、天正6年明智光秀のために落城したといわれています。

小山城は南北朝のころに荘林采女介によって築城されたといわれています。大村城は田中河内守宗長が足利尊氏から地頭職に任命され、築城したもので山腹には八王山薬林寺があり、田中河内守宗長の開基と伝えられています。

穴人城の築城年代は定かではないが、摩気小学校の西南の丘陵上にあったとされ、園部城初代城主小出吉親は穴人城に逗留し、城地の選定と築城にあたったといわれています。

黒田城は天暦元年の築城とされ、非常に古い城であります。城主は森氏で森筑後守宗政によって築城されたといわれています。黒田城は古くは片山城ともいい、亀岡市本梅地区、神前地区にも森氏がありますが、黒田の森氏と亀岡市本梅地区、神前地区の森との関係は定かではありませんが、黒田の森氏は近江国森庄にいた佐々木一族であったと思われます。一方、亀岡の森氏の家紋は下がり藤に中央に釜を配したもので藤原氏であると思われます。

船坂城は篠田村の足立氏が築城したとされ、足立氏は氷上の足立氏の一族といわれています。また、別の説によれば船坂村の豪族井尻氏が南北朝のころに築城したともいわれています。

野々口城は埴生城ともいい、室町時代に野々口左衛門尉親永が築城したといい、本梅城の支城といわれています。

高山城は藁無城ともいい、室町時代に内藤氏によって築城されたとされ、八木城の内藤氏の同族といわれています。

蜷川城は南北朝時代に蜷川親朝によって築城され、蜷川氏は室町幕府の政所代として要職についていたされます。応仁の乱では蜷川氏を除く多くは東軍についたといわれています。戦国期には丹波八上城の波多野氏が勢力下におさめ、八木城・高山城の内藤氏と対立していましたが、明智光秀の丹波攻略で形勢が一変し、ほとんどの山城は落城しました。

園部町の地図

国道9号線

京都縦貫道

葛城神社

北八田

JR山陰線

黒田城

垣内古墳

熊野神社

黒田古墳

黒田

若宮神社

船阪

橋田

園部城

三輪神社

大村城

改修後の本梅川

半田

大森神社

加茂神社

大村(城南町)

生身天満宮

小山城

徳雲寺

仁江

蛭子神社

八幡宮

五の本梅川

大西

八幡宮

八幡宮

菅原神社

夫人

夫人城

竹井

摩気神社